

野間仁根 館蔵品展

# 「自由に、思うがままに」

- Part 3 星空 -

2020年10月17日(土)~2021年1月17日(日)

野間仁根  バラのミュージアム

(今治市吉海郷土文化センター)

〒794-2103

愛媛県今治市吉海町福田1290番地

TEL/FAX (0897) 84-2566

休館日  
開館時間  
入館料

◆月曜日(祝日の場合は直近の平日)  
◆9:00~17:00(入場は16:30まで)  
◆一般310円・学生160円

◆高校生以下または18歳未満無料  
※大人団体(20名以上)250円

※65歳以上の方250円

※障害者手帳をお持ちの方及びその介助者1名は無料

『星座(蛇つかい)』



# 星座と 神話の世界

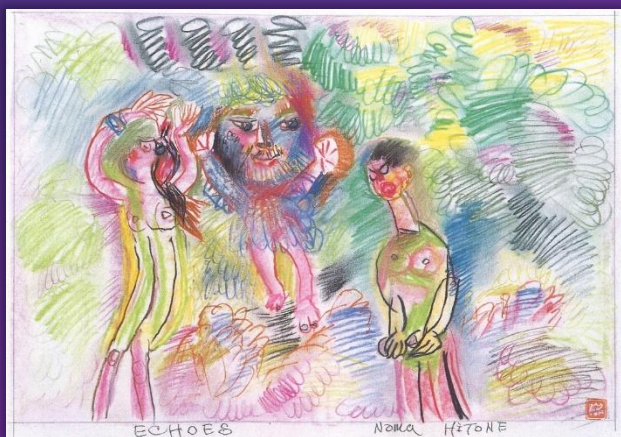
2020年1月から開催しております館蔵品展「自由に、思うがままに」、その「Part1 森」「Part2 海」に引き続き、今回は「Part3 星空」と題して、星と神話を題材に描かれた作品を展示いたします。

野間仁根は森や海、そこに生きる動物や昆虫、魚などあらゆるものに興味を抱き、それらを仁根独自の表現によって自由に、思うがままに描いてきました。そして、その好奇心は星空にまでおよびました。人から息子に望遠鏡がプレゼントされましたが、仁根のほうが星の観察に夢中になり、それが高じて神話を勉強し、一連の星座や神話をテーマにした作品群が生まれたといいます。（長井健『野間仁根の文人性について』より）

仁根の知識と想像力が混ざり合うことで擬人化、視覚化された幻想的な星座と神話の世界をどうぞご覧ください。



『天の河』



『ECHOES』



『山彦』

## 野間 仁根

Noma hitone  
(1901-1979)



### ■略歴■

- 1901年 2月5日津倉村（現吉海町）に生まれる。
- 1919年 伯父を頼り、母と上京。
- 1920年 川端画学校に学び、4月東京美術学校（現東京芸術大学）に入学。
- 1924年 第11回二科展で「ランプのある静物」が初入選。
- 1925年 東京美術学校卒業。
- 1928年 第15回二科展で「夜の床」が樗牛賞受賞。
- 1929年 第16回二科展で「ぜ・ふうるむうん」が二科賞受賞。
- 1931年 佐藤春夫作「むさしの少女」に挿絵を描く。
- 1932年 津倉村に於いて志那と結婚。
- 1933年 二科会会員に推挙される。
- 1938年 熊谷守一と作品発表2人展を開催。
- 1944年 郷里（津倉村）に疎開。二科会解散。
- 1955年 二科会脱退。同年、鈴木信太郎らと一陽会を結成。その後、個展や小規模なグループ展を開催。
- 1979年 12月30日、78歳で逝去。現在も吉海町の福蔵寺に眠る。

### ■アクセス■

愛媛県側から

【自動車】 しまなみ海道大島南ICから約10分

【バス】 松山市駅／今治駅より

大三島行き高速バスにて「吉海支所」下車、  
バス停より徒歩15分

広島県側から

【自動車】 しまなみ海道大島北ICから約10分

【バス】 広島バスセンター／福山駅前より

しまなみライナーにて大島BS下車、島内路線バスに乗換  
「幸（さいわい）」下車、バス停より徒歩10分